

地域住民を対象とした歯科保健指導の検討

～唾液潜血検査の分析結果から考える～

○千葉靖子、土田静花、黒田葉月、本間咲来、柴崎麻実、加藤裕一、山下英俊
山形市保健所

【目的】従来歯周病検診には口腔内診査が必要であるが、山形市では平成30年度より、歯周病の早期発見・早期治療を目的とし、簡便かつ痛みを伴わない非侵襲性の検査、唾液潜血検査による歯周病検診を実施している。今回唾液潜血検査により得られた結果から、地域における歯科保健指導について検討した。

【方法】対象者：平成30年度、令和元年度、令和4年度に20歳以上の山形市民9,910名中唾液潜血検査を受診した2,359名(参加率23.8%)。参加者内訳：男性905名、女性1,454名、平均年齢66.8歳(23歳-89歳)。検査方法：ペリオスクリーン®(サンスター社)を用いた唾液潜血検査、自記式問診票の記入。統計解析：唾液潜血検査結果と自記式問診票との関連について統計ソフトR/EZRを用いて分析し、有意水準は $p<0.05$ 。

【結果】①年齢群ごとの唾液潜血検査陽性率(以下、陽性率とする)について、年齢が上がると陽性率が有意に上昇した($p=1.79e^{-10}$)。②自覚している口腔症状の数が多くなるほど陽性率が有意に上昇した($p=2.24e^{-3}$)。③唾液潜血検査の結果に独立して関連があると推測されたのは(項目1,3,5)であった。さらに、これら全てに該当した者は、全体と比較し陽性率が高かった。④歯科定期健診有の者は陽性率が有意に低かった($p=9.57e^{-3}$)。⑤定期健診の頻度が短くなるほど陽性率が有意に低かった($p=4.51e^{-3}$)。⑥3ヶ月、6ヶ月ごとの定期健診受診者は、定期健診なしの者と比較し有意に陽性率が低かった。⑦女性では65歳以上で歯科定期健診有の者が歯科定期健診無の者より陽性率が有意に低かったが、女性の65歳未満、男性では有意差が見られなかった。

【考察】唾液潜血検査は歯周病のスクリーニング検査として有用であることが報告されている(大島ら,2001)。自覚症状の数や該当項目と陽性率の関連が認められ、さらに年齢や歯科定期健診の頻度と陽性率についても、有意な関連が明らかになった。この結果を活用することが、対象者に合わせた効果的な歯科保健指導に繋がり、歯周病の早期発見・早期治療を促す一助となり得る。



○千葉靖子, 土田静花, 黒田葉月, 本間咲来, 柴崎麻実, 加藤裕一, 山下英俊
(山形市保健所シンクタンクチーム)

[目的]

従来歯周病検診には口腔内診査が必要であるが、山形市では平成30年度より、歯周病の早期発見・早期治療を目的とし、簡便かつ痛みを伴わない非侵襲性の検査、唾液潜血検査による歯周病検診を実施している。今回唾液潜血検査により得られた結果から、地域における歯科保健指導について検討した。

[対象者]

平成30年度、令和元年度、令和4年度に20歳以上の山形市民で唾液潜血検査を受診した2,359名
参加者内訳：男性905名、女性1,454名、平均年齢66.8歳(23歳～89歳)

[方法]

ペリオスクリーン®(サンスター社)を用いた唾液潜血検査、
自記式問診票の記入

統計解析：唾液潜血検査結果と自記式問診票との関連について統計ソフトR/EZRを用いて分析
有意水準は $p < 0.05$

* Cochran-Armitage Test
** Logistic regression analysis
*** Fisher's exact test

自記式問診票 (該当する項目に✓)

最近のあなたのお口の状態を教えてください。

- 項目1 歯を磨くと歯ブラシに血がつく
- 項目2 歯ぐきが腫れている
- 項目3 冷たい水を飲むと、歯や歯ぐきがしみて痛い
- 項目4 口臭が気になる
- 項目5 歯がぐらぐらする、噛みにくい
- 項目6 歯と歯の間の食片がよくはさまる
- 項目7 歯が以前より長くなったように見える
- 項目8 朝起きたとき、口の中にネバつきがある
- 項目9 歯ぐきを押すと膿がでる
- 項目10 歯ぐきの周りにブラークや歯石が付いている

出典：日本歯科医師会、歯の学校Vol57, 2013年11月

結果

1. 年齢が上がると唾液潜血検査陽性率が有意に上昇 (図1)
 2. 自覚している口腔症状の数が増えるほど唾液潜血検査陽性率は有意に上昇 (図2)
 3. 唾液潜血検査の結果に独立して関連があると推測されたのは、項目1, 3, 5であった (表1)
 4. 歯科定期健診ありの者はなしの者と比較し唾液潜血検査陽性率が有意に低い (図3)
 5. 歯科定期健診の頻度が短くなるほど唾液潜血検査陽性率が有意に低い (図4)
 6. 3カ月、6カ月ごとの歯科定期健診受診者は、なしの者と比較し唾液潜血検査陽性率が有意に低い (図4)
 7. 65歳以上女性では歯科定期健診ありの者は、なしの者と比較し唾液潜血検査陽性率が有意に低い (図5)
- 男性では、どちらの年齢区分も有意差はみられない (図5)

図1 年齢群ごとの唾液潜血検査陽性率

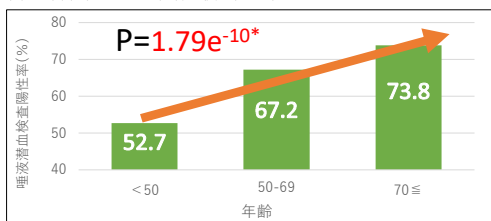


図2 自記式問診票該当数と唾液潜血検査陽性率

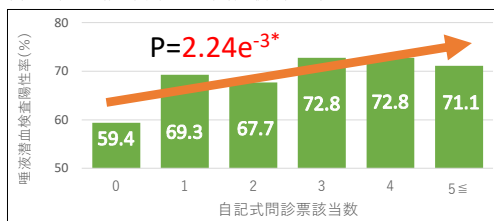


表1 唾液潜血検査と自記式問診票の項目との関連

	Odds rate	P value	95% confidence interval
項目1	2.410	2.21e-07**	1.730-3.370
項目2	1.260	1.90e-01	0.892-1.780
項目3	0.793	4.94e-02**	0.630-0.999
項目4	1.050	6.60e-01	0.856-1.280
項目5	1.700	6.94e-03**	1.160-2.500
項目6	1.050	6.52e-01	0.861-1.270
項目7	0.864	1.61e-01	0.704-1.060
項目8	1.100	3.46e-01	0.898-1.360
項目9	1.540	3.53e-01	0.619-3.850
項目10	0.926	4.89e-01	0.744-1.150

図3 歯科定期健診の有無と唾液潜血検査陽性率

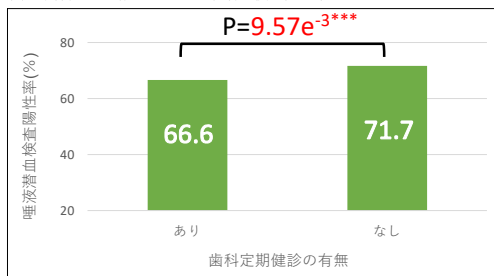


図4 歯科定期健診の頻度と唾液潜血検査陽性率

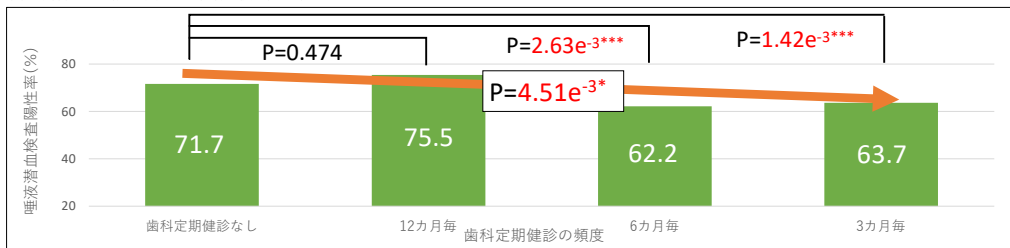
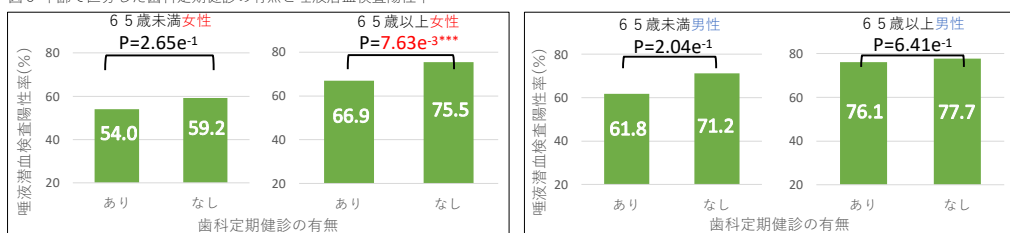


図5 年齢で区分した歯科定期健診の有無と唾液潜血検査陽性率



考察

唾液潜血検査は歯周病のスクリーニング検査として有用であることが報告されている(大島ら, 2001)。自覚症状の数や問診票該当項目と唾液潜血検査陽性率の関連が認められ、さらに年齢や歯科定期健診の頻度と唾液潜血検査陽性率についても、有意な関連が明らかになった。この結果を活用することが、対象者に合わせた効果的な歯科保健指導に繋がり、歯周病の早期発見・早期治療を促す一助となり得る。